

平成 30 年度 自己評価結果

【幼保連携型認定こども園】 いさお幼稚園

本園の教育目標

進んで物事をやり、友達と仲良くし、
豊かな心をもったたくましい子どもに育てる。

本園が目指す幼児像

- ◎ 一人ひとりに愛情あふれる保育を
- ◎ 集団生活の中で望ましい態度を
- ◎ 豊かな情緒と思考力の芽生え
- ◎ 最後までやりぬく強い心を

本年度重点的に取り組む目標、計画

- ・子どもたちが伸び伸びと活動できる教育活動の充実
- ・安心して安全な幼稚園を保证するための取り組み
- ・地域交流、異年齢交流の充実
- ・幼児の家庭での生活経験に配慮した基本的な生活習慣の育成

評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
保育の計画性	園児ひとりひとりの発達の理解を深め、支援を必要とする子どもに対してもより良い教育が行える体制を充実させた。 また、職員間の情報交換をこまめに行い全ての子どもに対する支援の充実を図るようにした。
保育のあり方 子どもへの対応	ヒヤリハットの園内事故について職員全体で把握しケガの対応、保護者への対応を丁寧にするとともに、園児の大切な命を守るための話し合いや研修を積みながら安全意識の高い園体制を作る努力をした。
研修及び 資質能力の向上	積極的にキャリアアップ研修に参加することで、保育のプロとして専門的な知識や技術を身に付け子ども一人ひとりを理解しようと努めている。 ベテラン教諭は日頃から経験年数の浅い保育教諭を信頼し、常に見守る姿勢で時にはフォローし、教諭らが自主的に保育できるよう心掛けた。
保護者への対応	保護者の質問や要望に対し、担任だけではなく園全体で話し合う。 園の考えを理解していただくとともに、保護者の立場になって考えることを心掛け担任を中心に園と保護者のかかわりを密にし、強い信頼関係を結ぶ努力を今後も継続していく。

今後取り組むべき課

発達支援 預かり保育の 検討と充実	療育機関との連携を図る。 カウンセラーの研修を受け支援が必要な園児にも過ごしやすい環境の提供ができるよう、教育課程や指導計画と同等の計画の作成を求めるものではないが教育活動として適切な活動となるよう預かり保育のねらいや配慮事項を教職員全員が共通理解する。
1・2歳児保 育の理解	1歳から5歳児が共に生活をする施設としてそれぞれの学年の育ちを見極め行事については全学年で行うもの、1・2歳児で行うものの区別の必要性を検討していきたい。同時に子どもの育ちに応じた異年齢同士の縦割り保育についても内容を充実していく。
避難マニユ アルの見直し	地震、津波、洪水などの災害時の避難場所を見直すとともに、全職員の共通理解を確認する。 また、避難マニュアル上には記載されていない想定外の被害についてシュミレーションして話し合う機会を設けいかなる時にも落ち着いた対応ができるようしておく。